

中途半端ではないカッコイイ生き方を

三年A組の学級通信の中に、どきっとする言葉をつまみつけた。こういう言葉を自分の中で深く考えることが、これからの成長に結びつくのだと私は思います。

「頑張らないのも、中途半端に頑張るのも、根本的にはあまり評価は変わらない。掃除をさぼっている人も、中途半端に掃除をしている人も、基本的には掃除を頑張らない人として評価される。」

評価のために頑張るものではありません。しかし、頑張る姿に対して、周りの人々は感動し賛辞を送ります。大切なのは、自分のこだわりにおいてがんばりきるということです。

本日発表されたアルミ缶回収の参加率。驚きましたね。三年生が軒並みアップしていました。とりわけ三年A組の参加率は目を見張るものがありました。七〇パーセント以上アップのほぼ全員参加の結果でした。しかし、学年としては二年生にまだ水をあけられています。これからは、三年生全体の今後の更なる奮起が期待されます。

三年生の今回の参加率は著しい進歩を遂げましたが、まだまだ今までの三年生の努力は一体何だったのだろうかという疑問が生まれます。やればできる力を持ちながら、そのほんの一部しか発揮できていなかった三年生。頑張っているように周りを見せていただけで、実際には「中途半端な頑張り」にすぎなかったのではないのでしょうか。

三A担任のK教諭の言葉を借りるなら、「中途半端にアルミ缶回収に取り組んでいる人も、基本的にはアルミ缶回収を頑張らない人」となります。ぼやぼやしている間に、後輩たちがずっと先に進んでしまったのは、「ウサギとカメ」の童話に似ていますね。ウサギにはカメでは到底勝てない脚力があります。その脚力を最大限に発揮してれば、カメに負けるはずがありません。

三年生には、この三年間で培ってきた力と努力を積み重ねてきた誇りがあるはず。それを発揮して生活すれば、周りから「やはり三年生はすごい！」という評価が得られます。あと四ヶ月、そういう評価がこちらで生まれることを期待します。

通信は次の言葉で結ばれていました。

「どうせだったら、『中途半端』なんてカッコ悪い生き方はやめて、『一生懸命』なカッコイイ生き方をしませんか？」

まさしくその通りです。一生に一度の中学生生活は、あと四ヶ月しかありません。カッコイイ生き方をするしかないですね。

(十一月六日記)